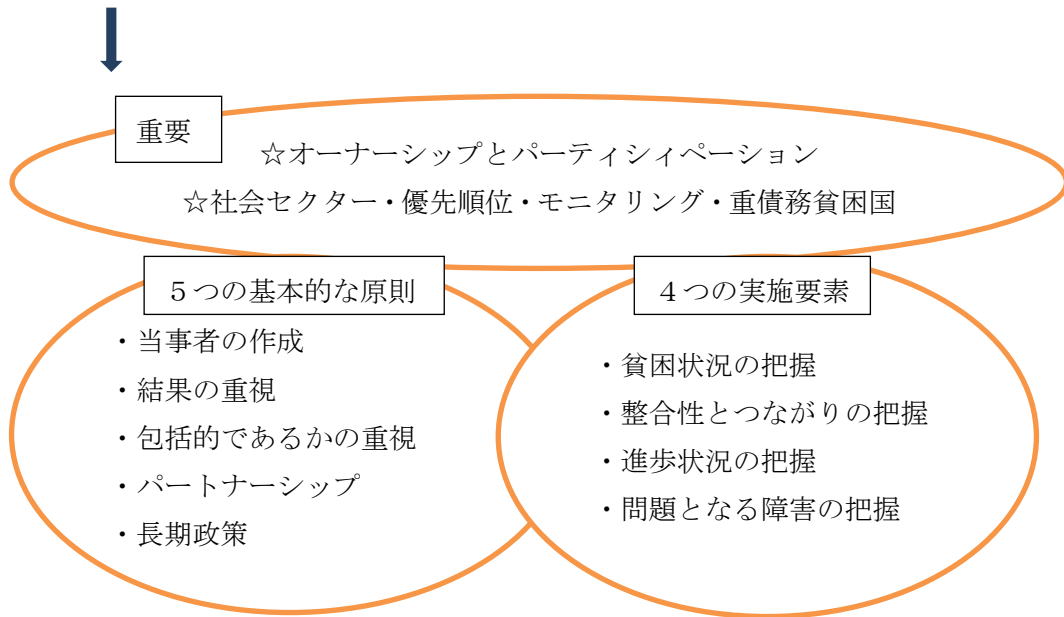


はじめに

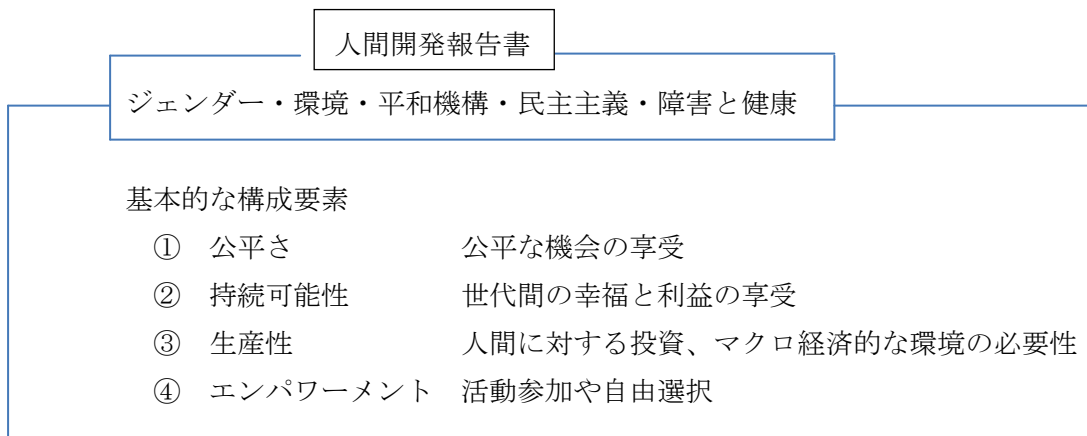
この章では、貧困の原因となるジェンダー、エイズ、ガバナンス、障害の開発経済学について述べられている。

第1節 ミレニアム開発目標と貧困削減ペーパー

- ・ミレニアム開発目標 = 2015年までに貧困を半減させる計画目標
- ・貧困削減戦略ペーパー = 援助を受ける国の政府が自ら作成する社会開計画



第2節 人間開発とジェンダー



- ・人間開発指数 (HDI) = 人間開発の概念を知識・健康・所得の3つに要約し、人間の生きる能力を0～1にしめたもの

* HDIは男女の到達度の格差、社会内の不平等が評価されない問題がある

～開発とジェンダー～

ボズラップの研究

男女格差がどの程度まで本人の能力格差に基づいているかを明らかにした。

女性が抱える問題

家系外	家系内
技能学習機会の制約、男性による独占	既存の社会慣習のとらわれ
単純労働	不平等が見えにくい

➡ 低賃金、低い交渉力の原因

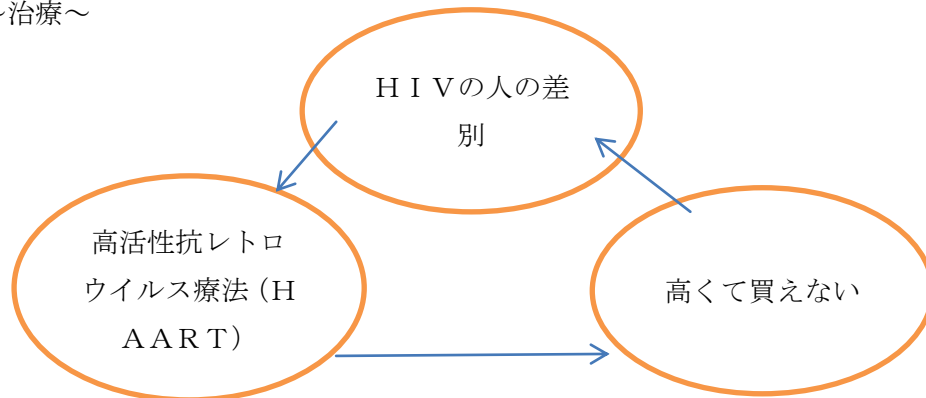
ジェンダー削減のために必要なもの

- ・ 女性の仕事や労働を正当に評価、適切な報酬
- ・ 家計内サービス（無償労働）の評価

第3章 エイズ

世界の4分の3の感染者が 南アフリカ

～治療～



- ・ H A R R Tの値段が下がる
 - ・ 予防としてのワクチン
- しかし所得の問題から受けられる人が少ない

第4節 ガバナンス

ガバナンスの良さを示す指標

- ① 実感汚職指数
- ② 汚職+6つのガバナンスの中心概念

ガバナンスの改善のために・・・

- ① 公共サービスの供給の仕組みの透明性を高める
- ② 制度を簡素化 → 公務員の自由裁量の余地を減らす
- ③ 1つのサービスを複数の政府機関に供給、民営化を促す
民営化して競争を促す

第5節 障害と開発

・「アジア太平洋障害者の10年」

1993年～2002年の10年に取り組むべき12の行動課題の実施

(国内調整、立法、情報、啓発報告、施設の設備、コミュニケーション、教育、訓練と解雇、障害の予防、リハビリテーション・サービス、介助機器、自助組織、地域協力)

 継続と延長

・「びわ湖ミレニアム・フレームワーク」(BIM)

新たなポスト10年で取り組むべき優先課題7点を実践

P312 図18-1 参照

世界人口10% → 障害者

その中の80% → 発展途上国に居住

低い教育 = 低所得  貧困リスクが高くなる

～発展途上国の障害問題の大きさと複雑さ～

- ・「アジア太平洋障害者の10年」延期になるほど成し遂げることが困難
- ・課題解決の過程でのせめぎあいや、先進国、途上国間のかけひき
- ・発展途上国障害者への課題が未だ多くあるなか、
アフリカ障害者への課題の取り組みがすでに始まっている。